

「このちい小さなはじ始まりをかろ軽んじるな。」



「きぶどうはっこうの木」発行
<http://budounoki92.com/>

ひと
1つほになろうよ!
いのち えほん いのち いと あ ほん
～命の絵本 <命の糸に会う本>～
トラクトばん版



詩篇 127 篇

【主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労は
むなしい。主が町を守られるのでなければ、守る者の
さめているのはむなしい。あなたがたが早く起き、おそく
休み、辛苦のかてを食^たべることは、むなしいことである。
主はその愛する者に、眠^{ねむ}っている時にも、なくてならぬ
ものを与えられるからである。

見よ、子供たちは神から賜^{たま}わった嗣業^{しぎょう}であり、胎^{たい}の実^みは
報^{むく}いの賜物^{たまもの}である。壮年の時の子供は勇士^{そうねん}の手^{とき}にある
矢^やのようだ。矢^やの満^みちた矢筒^{やづつ}を持つ人^もはさいわいである。
彼^{かれ}は門^{もん}で敵^{てき}と物^{もの}言^いうとき恥^はじることはない。】

クリスチャンである大学生の愛は、最近彼氏に振りまわ
されている恵のことが気になっていました。ある日、
二人だけになった教室で愛が声をかけると、恵は突然
泣き出し、自分の思いを話し始めたのです。

めぐみ あい わたし かれし おや
恵：「愛ちゃん、私は彼氏さえいてくれたらいいの。親と
うまくいっていないから、家にもいたくないし…
別に友達とも深く付き合っているわけじゃないか
ら…まあ、いつか適当に誰かと出会って結婚でき
たらいいかなって思う、周りもみんなそうだし…
今さらどうしようもない問題もあるしね…。」

あい めぐみ ほんとう せいしょ
愛：「恵ちゃん、本当にそれでいいの!? 聖書にはね、
恵ちゃんが生まれる前から、恵ちゃんにとっての
“たった一人の人”がいるって書いてあるんだよ。」

かみさま ひとり おとこ ぼね ひとり おんな つく
神様は、一人の男のあばら骨から一人の女を造られました。
男が女をしえたげて踏みつけるために足から取ったもの
でもなく、女が男を尻に敷くために頭から取ったのでも
ありません。助け手として仲良く並んで歩くようにと、わき
のあばら骨から、そして、妻を大切に愛して養うようにと、

いま たいせつ ひと
あなたには今、大切な人がいますか？

ささ おも ひと
支えたいと思う人がいますか？

とも よろこ とも な ひと
共に喜び、共に泣いてくれる人はいますか？

じぶん おも す なお なん はな あいて
自分の思いを、素直に何でも話せる相手がいますか？

かぞく なん
あなたにとって“家族”とは何ですか？

しんぞう ちか ひだりがわ と おとこ ほね おとこ つく
心臓に近い左側から取られました。男の骨から男を造つ
たのでもなく、一人の男のあばら骨から複数の女を
つく
造られたわけでもありません。“あばら骨をあげた人”と
“あばら骨をもらった人”が出会ったとき、その男女が
いったい
一体になるよう定められたのです。つまり神様は、あなたが
う
生まれる前から、あなたにとっての“たった一人の人”
をき
決めておられるのです。

そうせい き しょう せつ せつ 創世記2章2節～24節

しゅ かみ ひと と ほね おんな つく
【主なる神は人から取ったあばら骨でひとりの女を造り、
ひと
人のところへ連れてこられた。そのとき、人は言った。
ほね ほね にく にく
「これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。
おとこ と
男から取ったものだから、これを女と名づけよう。」
ひと ちち はは はな つま むす あ いったい
それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体
となるのである。】

せいしよ だんせい あた じよせい たす て
聖書では、男性に与えられたその女性のことを“助け手”
といっています。

そうせい き しょう せつ 創世記2章18節

しゅ かみ い ひと よ
【また主なる神は言われた、「人がひとりであるのは良く
ない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。】

ほんらい だんせい つく たす て じよせい
本来、男性のために造られたのが“助け手”＝女性ですが、
そこには、『人は一人では生きられない!』という神様の
おも こ
思いが込められています。このように人と人とが出会い、
たす あ い うえ しせい いま わたし
助け合うという生きていく上での姿勢は、今もなお私たちに
か
欠かせないものとして、天地創造の始めから与えられ
ているのです。

めぐみ かみさま じぶん そな ひとり
恵は、神様が自分に備えてくださっている“たった一人
ひと さんざい し ひと じぶん たいせつ
の人”の存在を知り、その人のためにも、自分を大切に
しなければいけないと思いました。
いま めぐみ す ひと ひと あたま
今までの恵は、好きな人ができると、その人のことで頭の
なか
中がいっぱいになり、少しでも彼の理想の女性に近づ
こうと必死でした。好きになればなるほど、彼の要求は
ことわ すべ う い めぐみ たい あい
断れず、全て受け入れていました。そんな恵に対して愛は
だんじよ かた せいしよ とお おし
男女のあり方について聖書を通して教えてくれました。

あい かみさま せいしよ なか なんと けいてく
愛：「神様がね、聖書の中で何度も警告しておられること
があるの。それは、しょうらいで あ
将来出会うあなたの“たった
ひとり ひと じぶん たいせつ
一人の人”のために、『自分を大切にする』とい
うこと!今は“できちゃった婚”や“授かり婚”が当たり
まえ
前のようになっているけど、それはかみさま き
神様が決めた

ちつじょ みだ かみさま こども
秩序を乱すことなの。神様は、子供をむかえる
ふうふ きずな かてい う ぎら
夫婦としての絆、家庭の受け皿ができてるところ
しゆくふく こども さず やくそく
に祝福の子供を授けることを約束しておられるん
だよ。生まれてきた子供に対する責任や、父親と
ははおや ふうふかんけい かんきょう
母親になる夫婦関係、環境がつくられていなければ、
りこん ぎやくたい ひさん けっか
離婚や虐待といった悲惨な結果になってしまって、
きず う あか
傷つくのは生まれてきた赤ちゃんだからね。それに
のぞ にんしん なや けつだん
望まない妊娠のために悩んだり、やめる決断を
して中絶することは、尊い命を消してしまうし、特に
じょせい しんしん おお きず のこ
女性には心身ともに大きな傷を残すことにも
なる…。今まで恵ちゃんが男女のあり方で当たり
まえ おも かみさま よるこ
前だと思っていたことが、神様が喜ばれることでは
なかったら、いつ何が起こってもおかしくない。
それぐらい男女の付き合い方って大事なんだよ。」

めぐみ
恵：「そうなんだ…。でも愛ちゃん、私の周りの友達
は「できちゃった婚」ばかりだよ。その子たちは、
どうなるの？一度、神様の秩序を乱したら、もう
やり直すことはできないの？」

あい
愛：「大丈夫だよ！聖書のことを知らなかった時のことは、
イエス様に『ごめんなさい』『許してください』って

いの く あらた よ ほうこう みちび
祈って悔い改めたら、すべてのことを良い方向に導い
てくださるよ。誰でも、新しい土台からやり直すことが
できるから、ぜひこの祈りを友達に教えてあげて。」

こえ だ よ
声に出して読んでください。
あい てん どうさま さま かみさま さだ けっこん
「愛する天のお父様、イエス様。神様が定められた結婚
の秩序を乱し、今日まで歩んできたことを悔い改めます。
ここから、もう一度新しく、私たちを神様が定められた
しゆくふく ふうふ う
祝福された夫婦としてくださり、生まれてきた子供も
健康やかに成長させてくださったことを感謝します。私
たち家族を正しい道に導いてください。アアメン。」
※「アアメン」とは、“そうなったと信じます”という意味です。

びと てがみ しょう せつ
へブル人への手紙13章4節
【結婚とその誓約を尊びなさい。純潔を保ちなさい。
かみさま ふひんこう もの かんいん もの
神様は不品行な者、姦淫する者を、まちがいがなく、さば
かれるからです。】

ひと す
人を好きになったからといって、性的な関係を持って良い
わけではありません。あなたが、幸せになれる相手は、
あと さき ひとり いっかい せいこうしよう
後にも先にもたった一人だけです。一回の性交渉が、

あなたの人生を台無しにすることのないように、神様は
厳しく警告しておられるのです。すべてはあなた自身が
受ける祝福のために…どうか自分を大切にしてください。

恵は、自分に注がれている神様の愛の大きさを知り、
神様に喜ばれる人生を歩んでいきたいと思いました。
その日恵は、愛と共に今までの自分を悔い改め、神様
に喜ばれる人生を生きるための力である、イエス様を
受け入れる祈りをしました。そして、聖書にはどんな
ことが書いてあるのかを、もっと知りたいと思い、愛と
一緒に聖書を学ぶ集会に行き始めました。

伝道の書 1 2 章 1 節～2 節

【あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。悪しき
日がきたり、年が寄って、「わたしにはなんの楽しみも
ない」と言うようにならない前に、また日や光や、月や
星の暗くならない前に、雨の後にまた雲が帰らないうちに、
そのようにせよ。】

聖書を人生の基盤にすることが、祝福の道であることを
知った恵は、聖書の教えに従っていくことで、どんどん

変えられていきました。そして聖書で約束されている通り、
たくさんの祝福をいただく中で、就職先も決まりました。
そんなある日、恵は真と出会いました。

いつ、どこで、どんな状況で“たった一人の人”に出会
うのか、気になることはたくさんありますが、それは
神様だけが知っておられることです。神様があなたのた
めに備えてくださっている相手は、思いもよらない人か
もしれません。でも、あなたのことを一番よく知っている
神様が決められた人であるならば、絶対に間違いはあり
ません。あなたがその相手に出会った時、きっと今まで
経験した好きな気持ちとは比べものにならないぐらいの
喜びと平安、何より確信が与えられるでしょう。

恵と真は、神様のタイミングで出会ったその日から、互い
に引かれ合っていました。
そして、家族や仕事の話、趣味、休日の過ごし方など、
いろいろな話をしながら互いを知っていきました。

恵：「私は真くんがどんなことに興味を持っているのか、
どんな家族のもとで育ったのか知りたいなって思う。

だから真くんにも私っていう人間を知ってほしい。
私は家にも本当の自分を出せなくて、親も私
に無関心で寂しかった。そんな環境で育ったから
友達が一番大事で、私の居場所はそこにしか
ないって思った。だから周りの友達に嫌われない
ように振る舞って、場の雰囲気壊さないように
一生懸命合わせていたけれど、そんなことをして
いたら、いつのまにか自分の気持ちを出すことに
臆病になっていって、だんだん自分というものが
なくなっていったんだ。恋愛話は盛り上がるけれど、
一人になると何をやっているんだろうって虚しく
なったり、落ち込んだりした時もあった。そして、
自分がどういふふう生きていけばいいのかわか
らなくなった時、聖書に出会ったの。聖書には、
私たち人間は、【母の胎内で神によって組み立て
られる】と書かれていて、一人一人が『この人は
この様に生きていくことが本当の幸せ、祝福で
ある。』という神様からの至福の計画をもって、
この地上に生まれてくるのだということを教えて
もらったの。そして、一人一人が神様にとって
『貴い一人』であると牧師さんから聞いて、とても
うれしくなった。私はその時はじめて、どれだけ

自分が神様に愛されてこの地上に誕生してきたの
かを知ったんだ。だから、自分を大切に生きて
ていかなければいけないと思ったの。それは私
だけではなくて、真くんもそうなんだよ。」

詩篇 139 篇 13 節～16 節

【神様は、精巧に私の体の各器官を造り、母の胎内で組
み立ててくださいました。こんなにも複雑かつ緻密に
仕上げてくださったことを感謝します。その腕前は
天下一品だと、よくわかっております。秘密の工房で私を
組み立てる時、神様は立ち合われました。生まれる前か
ら、まだ呼吸を始める前から、神様の目は私に注がれ
ており、その生涯にわたるご計画も、練り上げられてい
たのです。】

真は、自分のことを包み隠さず素直に正直に誠実に話す
恵の姿に、ますます心が動かされていきました。そして、
恵を変えた聖書を自分も学んでみたいと思いました。

真：「…でも聖書って難しそう。恵ちゃんにはわかった
けど、僕にわかるかな～」

めぐみ 恵：「わかるよ。聖書は世界中の言語に訳されていて、
わたしひとりひとりが意思さえむければ神様のことを
知ることができるように与えられた、神様から
あなたへのラブレターなんだよ。私も最初はわかる
かな～? って思ったけど、聖書に証されている
“イエス・キリスト”を受け入れると自然にわかる
ようになっていったの。イエス様は、神様に喜ば
れる人生を生きるための力となってくださる方
なんだよ。ただ声に出して告白するだけだから、
真くんも受け入れてみない?」

まこと 真：「そうなの? 声に出して告白するだけなの? じゃあ
受け入れてみるよ。」

こえ 声に出して、読んでください。
「愛する天のお父様、イエス様。私がこれまで犯してき
たすべての罪をお許してください。イエス様が、私の罪の
ために十字架にかかってくださり、3日目に神が死人
の中からイエス様をよみがえらせたことを信じます。
イエス様、どうぞ私の中に入ってください。そして、私の
これからの人生を導いてください。」

わたし 聖霊と火によってバプテスマ(洗礼)を授けて
ください。私の全身を聖霊で満たしてください。たった
今、聖霊をいただけたと信じます。そして異言もください。
いただいたと信じ、舌を動かしてください。
(ララララ…と声を出して舌を動かしてください。それが、
あなたの異言です。)

イエス様ありがとうございます。あなたがおっしゃる通り、
私はこれから聖書に書かれてあるしるしと奇跡を行い、
異言を語ります。すべての栄光はイエス様に帰して、
感謝して祈ります。アアメン。」

ローマ人への手紙10章9節~10節
【すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、
自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせた
と信じるなら、あなたは救われる。なぜなら、人は心に
信じて義とされ、口で告白して救われるからである。】

しとぎょうでん 使徒行伝1章5節
【すなわち、ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなた
がたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられる
であろう。】

しとぎようでん しょう せつ
使徒行伝 1章8節

【ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を
受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに
地のはてまで、わたしの証人となるであろう。】

それから真は恵と一緒に、毎週聖書のお話を聞きに行く
ようになりました。

ある日の集会で牧師を通して、『結婚』について語られ
ました。

牧師：「いいですか？皆さん。結婚は、あこがれや成り
行きでするものではありません。一人の人と
一生一緒に生きていくということは、聖書に書
いてある通り、【その身に苦難をまねく】ことの
方が多いです。そもそも結婚は二人だけの問題
ではありません。相手の家族を無視して生きて
いけると思ったら大間違いですよ。
聖書を通して、神が人と人との関係の中で最も
伝えたいことは、【互いに愛し合いなさい】また
【自分を愛するように、あなたの隣り人を愛しな
さい】ということです。ですから、まずはみことばに

したが、従って、相手だけではなく、相手の家族のこと
も同じように愛せるのか、同じように大事に
できるのか、それも含めて結婚したい相手なのか
熟慮しなければなりません。自分の親や兄弟を
大事にする人は、相手の親・兄弟も大事にす
るでしょう。子供は、そんな両親を見て育ちます。
結婚は相手のことをよく知り、相手の家族のこ
とをよく知り、そして理解し合うことから始まり
ます。ですから、まずは、“人”に関心を持ち、
コミュニケーションをとれる自分になることが
大切です。

人と人とはつながる中で、あばら骨を与えた男性
とあばら骨をもらった女性が出会えば、その
二人はやがて夫婦となり、家族となります。神は
一番のコミュニケーションの場としてすべての
人に平等に『家族』を与えてくださっているの
です。生まれてきた子供は、家族という小さな
社会の中で、愛し合うこと、許し合うこと、譲
ること、我慢すること、責任感などたくさんの
ことを学び、その培ったものをもって幼稚園や
学校で他者と関わっていくようになります。幼い
子供は、家庭で教えられたことしかできません。

りょうしん み よ わる きゅうしゅう
両親を見て、良いことも悪いことも吸収していき
ます。そんなすべての土台となる家庭環境の
はじまりが『結婚』です。その結婚により、未来
を担う子供が育ち、社会をつくり、やがて国をつく
り、世界をつくる! それほど『結婚』は重んず
べきものなのです。」

へブル人への手紙 13章4節

【すべての人は、結婚を重んずべきである。また寝床を
汚してはならない。神は、不品行な者や姦淫をする者
をさばかれる。】

めぐみ ぼくし はなし まいかいせいしょ ことば とも わたし
恵：「牧師さんの話は、毎回聖書の言葉と共に、私たち
が見えていないことや、その聖書の言葉を、実際に
どのように行っていけばいいのかまで教えてくれる
から、聖書に基づいた歩きができるね。聖書に、
【彼女は口を開いて知恵を語る、その舌にはいつ
くしみの教がある】って書かれているけど、まさに
牧師さんの話はいつくしみの教え! ずっと聞いて
いたいよね。前に牧師さんが、『※教会は神の
家族の食卓です!』って言っていたけど、最初は
どういう意味なのかわからなかった。でも、今は

わかる かぞく かこ しょくたく ぼくし
わかる! 家族で囲む食卓のように、牧師さんが
お母さんになって、個々の成長に応じて必要なみこ
とばを食べさせてくれる場所、共に笑い共に泣い
てくれる家族がいる、心安らげるあたたかい場所、
自分の思いを、素直に何でも話せる場所が教会
なんだよね。

※教会とは、建物ではありません。【ふたりまたは三人が、
わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中に
いるのである。】(マタイ18:20)と書かれてあるように、
教会=皆が集って、牧師が教え、学ぶ会を言います。

まこと わたし じぶん
真くん、私は自分たちだけのことをよく知って、うま
くいけばいいと思っていたけど、そうであってはいけ
ないよね。それに、二人でいろんなことを話して
理解し合ってきたつもりでいたけど、実際、真くん
の家族のことをどれだけ知っているかと聞かれたら、
まだまだ知らないことがたくさんあるな…。真くん
を大切に思うのであれば、真くんの家族のこと
もよく理解して、大切にしていきたいと思ったよ。」

まこと ぼく おな かた まえ めぐみ
真：「僕も同じことを語られたよ。前に恵ちゃんが、
ひとりひとりが神様によって大切に造られて誕生
してきたって話してくれたよね? だからこそ、僕は

めぐみ たいせつ おも ふたり
恵ちゃんを大切にしたいって思った。でも、二人
だけのことでなくて、互いの家族のことも大切に
していかなければいけないだね。
せいしよ ひと だけ い かた か
聖書は、人としての正しい生き方について書かれて
いるんだね。当然のことはずなのに、知らずに
生きてきたことが多すぎて、毎回反省することが
たくさんあるよ。すごいな、聖書って！思っていた
イメージとは全然違っていたよ…。」

めぐみ まこと たが し とも かぞく
そこから恵と真は、互いのことをよく知ると共に家族の
ことや将来のことなども、時間をかけて話し合っていました。

しへん へん せつ せつ 詩篇 119 篇 9 節～16 節

わか ひと みち きよ たも
【若い人はどうしておのが道を清く保つことができるで
しょうか。み言葉にしたがって、それを守るよりほかに
ありません。わたしは心をつくしてあなたを尋ね求めます。
わたしをあなたの戒めから迷い出させないでください。
わたしはあなたにむかって罪を犯すことのないように、
心のうちにみ言葉をたくわえました。

あなたはほむべきかな、主よ、あなたの定めをわたしに
おし 教えてください。わたしはくちびるをもって、あなたの口

で
から出るもろもろのおきてを言いあらわします。わたしは、
もろもろのたからを喜ぶように、あなたのあかしの道を
よるこ よるこ
喜びます。わたしは、あなたのさとしを思い、あなたの道に
め
目をとめます。わたしはあなたの定めを喜び、あなたの
こと ば わす
み言葉を忘れません。】

そして…

まこと めぐみ ぼく じんせい
真：「恵さん、僕の人生のパートナーになってください。」

めぐみ
恵：「はい!」

ふたり たが かぞく しゆくふく は けっこん
二人は、互いの家族にも祝福され、晴れて結婚する
ことになりました。

でんどう しょ しょう せつ せつ 伝道の書 4 章 9 節～11 節

【ふたりはひとりにまさる。彼らはその労苦によって良い
むく え
報いを得るからである。すなわち彼らが倒れる時には、
そのひとりがその友を助け起す。しかしひとりであって、
その倒れる時、これを助け起す者のない者はわざわざ
である。またふたりが一緒に寝れば暖かである。ひとり
だけで、どうして暖かになり得ようか。】

ぶじ けっこんしき むか ほうりつじょうにゆうせき とき
無事に結婚式を迎え、法律上も入籍することができた時、
あなたのため一人のパートナーがその人であったことが
わかります。

せいしよ ちゆうじつ したが まこと めぐみ かみさま まわ ひと
聖書に忠実に従ってきた真と恵は、神様にも、周りの人
にも祝福され、【神のみ旨】通り夫婦となりました。

ふくいんしよ しょう せつ せつ
マタイによる福音書 19章4節b～6節

そうぞうしゃ はじ ひと おとこ おんな つく い
【『創造者は初めから人を男と女とに造られ、そして言わ
れた、それゆえに、人は父母を離れ、その妻と結ばれ、
ふたりの者は一体となるべきである』。彼らはもはや、
ふたりではなく一体である。だから、神が合わせられた
ものを、人は離してはならない。】

しんげん しょう せつ
箴言 19章21節

ひと こころ おお けいかく しゅ むね
【人の心には多くの計画がある、しかしただ主の、み旨
だけが堅く立つ。】

しよ しょう せつ
イザヤ書 14章24節

ばんぐん しゅ ちか い おも かなら
【万軍の主は誓って言われる、わたしが思ったように必ず
成り、わたしが定めたように必ず立つ。】

こども かみさま おく もの
子供は神様からの贈り物

「^{こども}子供は^{かみさま}神様からの^{おくもの}贈り物」とよく^い言われますが、^{ほんとう}本当のことです。^{かみさま}神様が^{はは}母となる^{じよせい}女性の^{たいない}胎内で、^{こども}子供を^く組み立て^たられました。

詩篇 139 篇 13 節～16 節

【あなたは^{ないぞう}わが^{はは}内臓をつくり、^{たいない}わが母の胎内でわたしを^く組み立て^たられました。わたしはあなたをほめたたえます。あなたは^{おそ}恐るべく、^{かた}くすしき方だからです。あなたのみわざはくすしく、あなたは^{もつと}最もよくわたしを^し知っておられます。わたしが^{かく}隠れた^{ところ}所で造られ、^ち地の^{ふか}深い^{ところ}所でつづり合わされたとき、わたしの^{ほね}骨はあなたに^{かく}隠れることがなかった。あなたの^め目は、まだできあがらないわたしの^みからだを見られた。わたしのためにつくられたわが^ひよわいの^ひ日のまだ^{いちにち}一日もなかつたとき、その^ひ日はことごとくあなたの^{しょ}書にしるされた。】

めぐみ わたし
恵：「^こ私たちは、この子にとって、この^よ世でたった一人しか
^{とう}いない“お父さん”“^{かあ}お母さん”になったんだね。」

まこと ぼく ちちおや
真：「よし！僕はここから^{ちちおや}父親として、どんなことがあっても
^{かぞく}家族を守り、^{まも}養って^{やしな}いくから！」

詩篇 127 篇 3 節～5 節

【見よ、^{こども}子供たちは^{かみ}神から^{たま}賜わった^{しぎょう}嗣業であり、^{たい}胎の^み実
は^{むく}報いの^{たまもの}賜物である。^{そうねん}壮年の^{とき}時の^{こども}子供は^{ゆうし}勇士の^て手に
ある^や矢の^やようだ。矢の^み満ちた^{やづつ}矢筒を持つ^も人は^{ひと}さいわい
である。^{かれ}彼は^{もん}門で^{てき}敵と^{ものい}物言うとき^は恥^はじることは^{ない}ない。】

めぐみ わたし ははおや かみさま あず こ しゅ
恵：「私は母親として、神様から預かったこの子を、主に
あつて一人前に育てていくね。子育ての責任は
おおいけど、この子のことをすべてご存知の神様が、
ようい用意して下さった『聖書』に従って子育てをして
いけば大丈夫だよ。」

まこと ふたり ちから あ こ かみさま
真：「そうだな。二人で力を合わせて、この子を神様に
よるこ喜ばれる人間に育てていこう！」

こども なまえ なづ
子供の名前はミチルと名付けました。

まこと きょう かぞく いちいん う
真：「今日からミチルは家族の一員だ。生まれてきて
くれて、ありがとう。」

でんどう しょ しょう せつ せつ
伝道の書 4章9節～12節

【ふたりはひとりにまさる。彼らはその労苦によって良い
むく報いを得るからである。すなわち彼らが倒れる時には、
そのひとりがその友を助け起す。しかしひとりであつて、
その倒れる時、これを助け起す者のない者はわざわざ
である。またふたりが一緒に寝れば暖かである。ひとり

だけで、どうして暖かになり得ようか。人がもし、その
ひとりを攻め撃ったなら、ふたりで、それに当るであろう。
三つよりの綱はたやすくは切れない。】

はは たいない こども く た よ たんじょう
母の胎内で子供を組み立てて、この世に誕生させた
かみさま ちょうし か
神様が、長子であるイエス・キリストについて書かせた
ほんが、【聖書】です。そこには、親としての在り方、親と
こども かんけい なに こども しょうらい
子供の関係、何をしつけていくべきか、子供の将来に
たい けいかく かみさま き にんげん どうり りょうしき
対しての計画、神様が決めた人間としての道理（良識）
など、すべての答えが書かれています。

ですから、聖書（真理）に従って子育てをしていけば、
ぜったい まちが かみさま じしん せいしょ
絶対に間違いはありません。神様ご自身が、聖書に
したが いて 生きていくことを、その子供にとっての一番の
しあわ やくそく
幸せだと約束してくださっているからです。

しんげん しょう せつ せつ
箴言 3章1節～8節

【私の教えを忘れてはいけません。充実した人生を送り
たければ、私の命令を忠実に守りなさい。いつも正しい
せいかつ ひと しんせつ ふた こころ
生活をし、人には親切にするのです。この二つが心から
おこなえるように、しっかり身につけなさい。神にも人に
よるこ ものごと ただ ほんだん
も喜ばれ、物事を正しく判断できるようになりたければ、

徹底的に神様に頼ることで、絶対に自分を頼ってはいけません。何をすることも、神様を第一にしなさい。神様がどうすればよいか教えてください、それを成功させてください。思い上がって、自分の知恵をあてにしたりしてはいけません。むしろ、神様をたいせつにし信頼することで、悪の道から離れなさい。心も体もみずみずしく元気がいっぱいになります。】

箴言 3章 13節～20節

【良いことと悪いことの区別が付き、物事を正しく判断できる人は、大金持ちよりもしあわせです。高価な宝石であれ何であれ、このような知恵に比べたら問題にもなりません。知恵が与えるものは、充実した人生、財産、名誉、楽しみ、平安です。知恵はいのちの木、いつもその実を食べる人はしあわせです。神様の知恵によって地球は造られ、宇宙は完全にでき上がりました。神様の知恵によって、泉は地中深くからわき上がり、空は雨を降らせます。】

箴言 3章 21節～26節

【二つのものを求めなさい。善悪を見分けて実行する知恵と良識です。この二つを見失ってはいけません。知恵と

良識を持つことはたいへんな名誉です。そればかりか、生きる力が与えられ、失敗をしたり、道を誤ったりすることもなくなります。この二つのものが見張ってくれるので、安心して眠れます。また、神様がそばで守ってくださいるので、みじめな思いをすることも、悪人の悪だくみを恐れることもありません。】

たくさんの愛を両親から受けて、ミチルは3歳になりました。

<ある日の夕食>

めぐみ 恵：「ミチル、ハンバーグだけじゃなくて、サラダも食べてね。」

ミチル：「いやだ、食べられない。」

めぐみ 恵：「どうして?おいしいよ。野菜も一つ一つ、神様がつくられた作品なんだよ。だからおいしくない食べ物はないんだよ。それに、ミチルが食べなかったら、野菜を一生懸命育てた人や、ミチルのためにがんばってお料理したお母さんも悲しいな。」

ミチル：「みんながミチルのためにつくってくれたの？
じゃあ、ちょっと食べてみる！…あっ、食べれた！」

めぐみ
恵：「そうですね？トマトにはトマト、レタスにはレタスの
あじ
味があるよね。すごいよね、神様は！だから、
なん かんしゃ た
何でも感謝して食べようね。」

＜公園のブランコで＞

めぐみ
恵：「ミチル、ほかのお友達も乗りたくて待っているから、
か
代わってあげようね。」

ミチル：「いやだ、まだ乗ってる！」

めぐみ
恵：「ミチル、せいしょには、お友達にしてもらいたいこと
をしてあげなさいって書いてあるよ。ミチルがブラ
ンコに乗りたいたときに、お友達が代わってくれな
かったら、どんな気持ちになるかな？」

ミチル：「いやだ…代わってほしい…」

めぐみ
恵：「そうだね。じゃあ、まずはミチルがお友達に
か
代わってあげよう。そうしたら、みんなが楽しく
あそ
遊べるよ。」

ミチル：「わかった！…次どうぞ！乗っていいよ！」

めぐみ
恵：「ミチルは、やさしいね。えらいね！」

＜外出先で＞

きんじよ
近所のおばさん：「あら、ミチルちゃんこんにちは。お父
さんとお出かけ？いってらっしゃい。」

ミチル：「……」

まこと
真：「ミチル、あいさつは？黙っていたら、ダメだぞ。
どんなときでも、にこにこ笑顔で元気にあいさつ
しないと！神様は、いつもミチルが元気にあいさつ
しているかな？いつもにこにこ笑っているかな？って
み
見ているんだぞ。」

ミチル：「え？そうなの？

…おばさん、こんにちは。いってきます！」

クリスチャンのりょうしんは、子供が幼いうちから、せいしょ
なん か
何と書かれているのか確認できるように、あらゆる場面を
こども せいちょう かくて ころりょうしき はぐく
子供の成長の糧にして、心と良識を育ていかなければなりません。

イエス様を受け入れて救われ、せいれい いただ
いとな ともども かんけい こと
となれば、大人も子供も関係なく、個々がしっかりと
イエス様（聖書）に従っていくことができます。何歳で
あってもせいしょ おし かんべき かた さま
あっても聖書の教えがわかるよう、完璧な方＝イエス様が

うち はい 内に入られたのです。こども おとな じゅんすい 子供は大人より純粹です。ミチルは
よ じょうしき ち え この世の常識や知恵がついていない分、ぶん うたが 疑うことなく
さま おし まも かみ ち え したが せいしょ ことば イエス様の教えを守り、
たいとく せいちよう 体得しながら成長していきました。

しんめいき しょう せつ せつ
申命記 6章 6節～7節

【きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの
こころ と つと めい ことば
心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが
いえ ざ とき みち ある とき ね とき お
家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる
とき とき かた
時も、これについて語らなければならない。】

びと てがみ しょう せつ せつ
コロサイ人への手紙 3章 18節～21節

【つま もの おつと つか しゅ もの
妻たる者よ、夫に仕えなさい。それが、主にある者に
ふさわしいことである。おつと もの つま あい
夫たる者よ、妻を愛しなさい。
つらくあたってはいけない。こ もの なにごと
子たる者よ、何事について
りょうしん したが
も両親に従いなさい。これが主に喜ばれることである。
ちち もの こども こころ
父たる者よ、子供をいらだたせてはいけない。心が
し
いじけるかも知れないから。】

しゅうまつ
＜ある週末・・・＞

きんようび
金曜日

ミチル：「お父さん、おかえり。きょう いちにち しごと
今日も一日、お仕事
おつかれさま。」

まこと
真：「ありがとう、ミチル。きょう がぞく
今日もがんばって家族の
はたら ために働いてきたぞ。」

めぐみ いっしゅうかん くろうさま
恵：「一週間で苦労様でした。」

まこと
真：「ミチル、あした す
明日はどんなことして過ごすか？」

ミチル：「さんじん で
三人でお出かけしたい！」

まこと
真：「そうか、どこに行く？」

ミチル：「ピクニックに行きたい！」

まこと
真：「いいなあ。あした てんき よ
明日は天気も良さそうだから、さんじん
ピクニックに行こうか！」

めぐみ
恵：「ミチル よ 良かったね、いの き
祈りが聞かれたね。じゃあ
お母さん、お弁当作るわね！」

ミチル：「やったー、たの さま
楽しみだな。イエス様、ありがとう！」

どようび
土曜日

そして、三人はピクニックへ出掛けました。真と恵は、
元気に遊ぶミチルの姿を、喜んで見ていました。

真：「本当にミチルはかわいいな。生まれた時もこれ
以上かわいいものなどないと思ったけど、大きくなる
につれ、かわいいと思う気持ちはもっと強くなって
くるよ。それにミチルが生まれ、君と家族三人に
なってからは、仕事をしている時でも家族のことを
思うようになった。父親として家族を支えたい思いで、
いろんなことに向かっていけるようになった。かけ
がえのない家族を与えてくださり、そして僕自身にも
父親として、人として、大事なことを教えてくださる
神様に感謝の気持ちでいっぱいだよ。」

恵：「そうね、ミチルの日々の成長と一緒に見守る中で、
私は母親としての喜びを感じているわ。そして、
聖書に基づいて子育てをしていくことで、自分も
すくく変えられたと思う。つい、自分のやり方で
子育てしても、不安なことばかりで…いらいらして、
理不尽な叱り方でミチルを傷つけてしまうことも
あった。でも、いつもイエス様は共にいてくださって、

ミチルの気持ちも私の気持ちもすべてご存知で、
必ず私たちを聖書の言葉に立ち返らせてくださっ
たの。子育てを通して私たち自身も成長していける
ことは、とてもすばらしいことだと思うわ。」

真：「子供は親を見て育つから、親である自分たちが、
まずは聖書に従った歩きをしていくことが大切だね。」

恵：「これからもますます、聖書に従って歩んでいける
ように、イエス様に祈り求めていこうね。明日の
集会では、どんなことが語られるんだろう？楽しみ
だね。」

次の日の集会で、真と恵は、聖書に従って育てられ、
成人した光さんの証を聞きました。

光：「私は小学5年生の時、イエス様を受け入れて救われ、
クリスチャンとなりました。声に出して祈りの言葉を
読んだだけなのに、不思議と涙が止まらず、その
日はずっと泣いていたのを覚えています。母は、
私より先にクリスチャンになり、聖書を読んでいま

したので、私も聖書を手にとり、一緒に読むよう
になりました。母は私に、『聖書は、イエス様が
光ちゃんに宛てた手紙なんだよ。だから、パカッ
と開いたページに光ちゃんに読んでほしいことが
書いてあるの。』と教えてくれました。幼い私は、
イエス様が自分に直接語ってくださっているという
事実がうれしくて、聖書を開くのが楽しみになりました。
『お母さん、ここを開いたんだけど、どう
いう意味?』『今日はこの言葉をもらったよ!』と、
聖書を中心に母と話をすることも増えていきました。
母は、いつも優しく聖書のことを教えてくれました。
学校でけんかをして帰ってきた時には、『聖書
には、けんかをさせたり、嫌な気持ちにさせるのは、
お友達ではなくて悪魔って書いてあるよね。だから、
お友達は悪くないから、許して、愛して、祝福
しようね。』と、聖書の言葉に私を戻して励まして
くれました。そして、友達と仲直りができるように
母と一緒にイエス様に祈り、次の日学校に行って
仲直りができると、“うわあ!イエス様に祈った
からだ!”と、うれしくなり、イエス様への信仰も
強められていきました。

母はどんな時も、決して自分の意見を言いません
でした。私が悪いことをした時も、カッとなって怒る
のではなく、『光ちゃん、イエス様(聖書)に戻って
それがいいことかどうか聞きなさいね。』と言われて
きました。私が聖書を開くと、【両親に従いなさい】
【あなたの両親を敬いなさい】という言葉が目
飛び込み、自分のしたことを反省することが多々
ありました。納得できないまま強制的に謝らさ
れるのではなく、自分とイエス様の関係の中で、
心から“悪かった”と認め、謝ることができました。
母の内にも、私の内にも同じイエス様がいるの
だから、出てくる答えも一つです。母はそのこと
を知っていました。だからこそ、私のすべてを
イエス様に信頼してゆだねることができたのだと
思います。
そして、母と私の間には余計な言葉が減り、聖書の
言葉がしっかりと生活の中に根付いていきました。
私がここまで、クリスチャンとして聖書の言葉を
信じ続けることができたのは、母が私を育てる
上で、このような聖書に従った‘しつけ’を絶対に
ぶれることなくやり通してくれたからです。聖書と
いう基盤がある子育ては、一本筋が通っていた

ので、母の機嫌や状態によって、言っていることや、
やっていることが左右されるということはありません
でした。もし母が、ある時は聖書の言葉に従って
私を励まし、ある時は母の感情に従って叱ってい
たら、私の信仰も不安定なものになっていたで
しょう。何よりも、そんな母の姿は、私の信仰が
育つうえでつまずきとなっていたと思います。子供は
幼くても、親の姿をよく見えています。私もそうで
した。私の目に映る母は、何があってもどんと
構えてゆとりがあるように見え、いつも穏やかでした。
そして、日常生活のあらゆる場面で、聖書に何と
書いてあるのかを、私と一緒に確認し諭してくれ
ました。母は、イエス様にとても信頼していました。
自分のやり方で子育てをするよりも、イエス様＝
聖書が土台の子育てがどんなに楽で、平安なのか
を自らをもってあらわしていました。私は、そん
な母に育てられたことを幸せに思い、感謝してい
ます。」

牧師：「光さんのお母さんは、自分の子供としてでは
なく、神様から預かった一人の子供＝神様の
子供（クリスチャン）として、光さんを育てて

きたのですね。神が造られた子供たちには、
一人一人に『このように生きてほしい』という、
神のご計画があります。それは、聖書に従って
子育てをした時に、はっきりと見えてくるもの
です。だからこそ、両親が聖書に従って子育て
をすることは、その子にとって最も重大なこと
なのです。

子育ての責任は大きいですが、決して難しい
ことではありません。神が、私たち人間に、
“父親・母親”になる資格を平等に与えてくだ
さったということは、本来子育ては、誰でもできる
簡単なことなのでしょう。なぜなら、神ご自身が、
あらかじめ子育て本【聖書】を用意されている
からです。聖書は、一番たくさん言語に訳
され、世界中で読まれているベストセラー本です。
どこの本屋でも簡単に買うことができます。世の
中で出版されている子育て本が、あなたの悩み
や問題を真に解決することは不可能でしょう。
もともと神は、子供の行動をパターン化したり、
例えば、性格を血液型や星座などにグループ
分けして、ひとくくりができるように、人間を

つく 造られてはいないからです。実際、あなたが自分の
やり方を変えたり、実践を継続していくことも
たいへん 大変なはずです。しかし、イエス様は24時間
あなたの内におられるので、常にあなたやお子
さんに必要なことを聖書を通して教えてくだ
さいます。実践する力も持続する力も、イエス様
を受け入れた時にすでに備えられています。子育てに
一本筋を通すためには、たとえどんな状況
が訪れようと決してぶれないものが必要です。
それが、【聖書】という形で、私たち人間には
すでに与えられているのです。」

ひかり 光さんの証と牧師のメッセージを聞いた恵は、改めて、
かみさま もと 神様が求めておられる親子の在り方と聖書の大切さに
ついて、イエス様が牧師を通して語ってくださったこと
に感謝しました。

でんどう 伝道の書12章12節~13節
ちゅうい 注意してください。人の意見には際限がありません。
それをぜんぶ学ぼうと思ったら、いつになっても終わりが
なく、疲れきってしまいます。これが私の最終的な結論
です。神様を敬い、その命令に従いなさい。これこそ

にんげん 人間の本分だからです。かみさま わたし 神様は私たちのすることは何
でも、ひとめ 人目につかないものでも、ぜん 善でも悪でも、みなさば
かれるのです。】

詩篇 112章 1節~4節

【主をほめたたえよ。主をおそれて、そのもろもろの戒め
を大いに喜ぶ人はさいわいである。その子孫は地にお
いて強くなり、正しい者のやからは祝福を得る。繁栄
と富とはその家であり、その義はとこしえに、うせること
はない。光は正しい者のために暗黒の中にもあらわれる。
主は恵み深く、あわれみに満ち、正しくいらせられる。】

じこあい 自己愛や自分の利益のために、じぶん りえき 子供に我慢をさせていま
せんか?

ことば 言葉や親の権威(力)をもって、こども きも 子供の気持ちを押しさ
えつけていませんか?

あなたの価値観で子供の将来や希望を奪っていませんか?

“子供は親を選べません”

いま め まえ こ ちちおや ははおや
今、目の前にいるお子さんにとって、父親・母親は、
せかいじゅうさが ひとり かみさま き
世界中捜してもあなた一人しかいないと、神様が決め
られ、それは変わることはありません。しかし、子供の
しょうらい おや かんが なた か ちかん か
将来は、親の考え方や価値観で変わっていきます。
りょうしん くとうかつとう じぶんかつて そだ こども ほんらい
両親が苦闘葛藤して自分勝手に育てた子供は、本来
あゆ みち まよ くる ある
歩むべき道からはずれてしまい、迷い、苦しい歩きをしな
ければなりません。あなたが良いと思っている子育てが、
こども よ おも こそだ
子供にとって良いものとは限りません。神様から預かった
だいじ こども いま たね ま
大事な子供たちに、今までどんなもの(種)を蒔いてきた
でしょうか？

せいしよ ひと じぶん か と
聖書には、【人は自分が蒔いたものを、刈り取ることに
なる】と書いてあります。親に教えてもらったことしか
こども か おや おし
子供はできません。ですから、子供の姿を見せられたら、
じぶん こそだ はんせい げんいん こども
まずは自分の子育てを反省するべきです。原因は子供
にあるのではなく、親にあるのです。しかし、逆のことも
い せいしよ したが こども りょうしん ちせい はたら
言えます。聖書に従って子供の良心や知性に働きか
けていった時、あなたは、自分の蒔いてきたものを刈り
と とき じぶん ま か
取ることができます。愛を蒔けば、子供から愛が返って
あいま こども あい かえ
きます。聖書に基づいた良識を蒔けば、子供も親で

あるあなたも、決して恥をかくことはありません。何より、
こども かみさま き けいかくどお
クリスチャンの子供は、神様が決められた計画通りすべて
しゆくふく じんせい ある こども
に祝福された人生を歩くことができます。この道を
ある かみさま あた おや しごと こそだ
歩かせることが、神様に与えられた親の仕事＝子育てです。
そして、そのすべての土台になるのが“家族でつくりあげ
ていく家庭”です。

箴言 13章 24節

【むちを加えない者はその子を憎むのである、子を愛する
ものは、つとめてこれを懲らしめる。】

箴言 17章 25節

【愚かな子はその父の憂いである、またこれを産んだ母
の痛みである。】

箴言 19章 18節

【望みのあるうちに、自分の子を懲らせ、これを滅ぼす
こころ おこ
心を起してはならない。】

箴言 22章 6節

【子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老い
ても、それを離れることがない。】

箴言 22章 15節

【愚かなことが子供の心の中につながれている、懲らしめのむちは、これを遠く追いだす。】

箴言 23章 13節～14節

【子を懲らすことを、さし控えてはならない、むちで彼を打つても死ぬことはない。もし、むちで彼を打つならば、その命を陰府から救うことができる。】

箴言 29章 15節

【むちと戒めとは知恵を与える、わがままにさせた子はその母に恥をもたらず。】

箴言 29章 17節

【あなたの子を懲らしめよ、そうすれば彼はあなたを安らかにし、またあなたの心に喜びを与える。】

箴言 20章 30節

【傷つくまでに打てば悪い所は清くなり、むちで打てば心の底までも清まる。】

箴言 6章 23節

【戒めはともしびである、教は光である、教訓の懲らしめは命の道である。】

申命記 6章 6節～7節

【きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。】

イザヤ書 54章 13節

【あなたの子らはみな主に教をうけ、あなたの子らは大いに栄える。】

常に‘神の愛’をもって子育てをしていきましょう。

コリント人への第一の手紙 13章 1節～8節 a

【たといわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鑊鉢と同じである。たといまた、わたしに預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし

愛がなければ、わたしは無に等しい。たとえまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分の体を焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である。

愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない、不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。愛はいつまでも絶えることがない。】

両親に、神の愛と聖書の言葉を注がれながら成長したミチルは、9歳の誕生日を迎えました。

牧師：「今日は、ミチルちゃんの9歳のお誕生日ですね、おめでとう。実は、聖書に書かれてある御霊の実も【愛・喜び・平和・寛容・慈愛・善意・忠実・柔和・自制】の9つです。私は家では、二人の娘を育ててきた母親ですが、御霊の実の順番を見た時、必死に子育てをしていたころのことを思い出しました。

子供は、1歳で親から、家族から、【愛】を知り、2歳で【喜び】を知って笑うことができるようになり、すくすく育て、3歳で親や家族に守られているという【平和（平安）】を感じ、4歳で幼稚園に行くとお友達ができ、我慢して許すという【寛容】を覚えて…そして、4歳まで培った愛がふくらんで、5歳になったら自然に愛したり、自分の利益を考えないで、相手のことも考えて優しい気持ちになって、大事に思ったり感謝したりする【慈しむ愛】が育ちます。さらに小学校に行くと、6歳で【善意】、7歳で【忠実】、8歳で【柔和】、そして9歳で【自制心】をやしません。そんな子供の姿を見ては、“うわあ、こんなことができるようになった”“こんな気持ちが持てるようになった”と、その成長に感動したり、うれしい気持ちになったものです。神様は、私たちが生まれた時から、家族の愛や、周囲の環境、人との関わりを通して、一つ一つ順番にこれらの実を得られるように定められているのです。どれも生きていく上で、人として当然の心の成長です。そして、体が食事をとらなければ大きくならないように、心も放って

おいたらそだ育ちません。御み霊たまの実を、年ねん齡れいと共ともに
育そだてていくのが親おやの役やく目めであり、心こころを育そだてる
場ば所しょとして、まかず神かみが決きめておられるのが
“家か庭てい”なのではないでしょうか？
今日きょう、ミチルちゃんこめは9個こめ目の実みがなりました！
すばらしいね。もし、それい以外がいの気き持もちがあつたら、
それはサタン・悪あく魔まが入いれてくるものわるです。悪い
こと、嫌いやな気き持もちは、神かみ様さまからは来こないことを
忘わすれないでくださいね。ここからは、お父とうさんと
お母かあさんと一いっ緒しょに、まみすまみす御み霊たまの実みをみみがき
ああげていいつてくくださいね。」

ミチル：「はい！御み霊たまの実みが9個こななってううれれしいです。
大たい切せつにしたいです！」

この日ひ真まと恵めぐみは、聖せい書しょにしたがが子こ育そだてのすすばらしさを
ああらたらじじつつかんかんかかていていなかなかななおおおおみみささま
改かめて実じつ感かんし、家か庭ていの中なかに成なった大おおききな実みをイエス様
に感かん謝しゃしました。

今いまからでも遅おそくはありませない。ままずはあなたあなたの大たい切せつな
おこ子こさんさんを、本ほん来らい神かみ様さまが決きめていいるレールれいルる(計けい画かく)のうええ
に上うに

の
乗のせてああげてくください。そそしてもう一いち度ど、『子こ育そだて』を
聖せい書しょにしたががははじじめてくください。親おや子こで、聖せい書しょに書かかれて
いいるたたくくささんんの言ことばば（種たね）を、ああなたのか家てい庭にわという“庭”に
まま蒔まいていいくだけだけでよよいいのです。その種たねは、水みず（愛あい）をああげる
こことで成せい長ちようし、やめがだて芽めを出だし、花はなを咲さかせ、実みになる
でみしょう。その実みここそそが、聖せい書しょに書かかれていいる御み霊たまの実み、
【愛あい・喜よろこび・平へい和わ・寛かん容よう・慈じ愛あい・善ぜん意い・忠ちゆう実じつ・柔じゆう和わ・
自じ制せい】です。どどううか、家か庭ていの中なかに、そそして、ああなたと
おこ子こさんさんとの間あいだにたたくくささんんの実みををななららせせてくください。

しんげん しょう せつ せつ
箴言 2 4 章 3 節 ~ 4 節

【家かは知ち恵えによよつて建たてたられ、悟さとりによよつて堅かたくせられ、
ままた、へちやしは知ち識しによよつてささままざざの尊たつとく、麗うるわしい宝たから
で満みたたされる。】

ある年の結婚記念日、真と恵は、高校生になったミチルから手紙をもらいました。

『お父さん、お母さんへ

結婚記念日おめでとうございます。

いつも私の事を気にかけて話を聞いてくれてありがとう。何があっても聖書のみことばに戻してくれて、共に祈ってくれること…本当にうれしいです。

お父さんとお母さんは、夫婦で何でも話し合い、お互いに尊敬し合い、愛し合っていて、そんな二人の姿を見ながら“私もいつかこんな夫婦関係、家庭を築いていきたい!”って思ってきました。私にとって、お父さん、お母さんと過ごす時間は、うれしいことも悲しいことも共に分かち合えるかけがえのない時間です。私が一番心安らげる時間は、家族という時…そう思えることが何より幸せです。

二人が神のご計画によって出会い、結婚したからこそ、今の私がいる…そして私もいつか家庭を築いていく…家族は、そして命も!そうやってつながっていくんだね。私も、まずは神が決めたパートナーのために自分を大切に、私がお父さんとお母さんから受けたことを、将来生まれてくる子供にしてあげられるように、これからも、

ますます聖書に従って歩いていきたいと思います。

お父さん、お母さん、いつも私の一番の理解者でいてくれてありがとう。ここまで育ててくれてありがとう。私は、お父さんとお母さんの子供として生まれてくることができて、本当によかった!!

これからも夫婦仲良く、そして家族仲良く歩んでいこうね! イエス様、私のためにかけがえのない家族を与えてくださり、感謝します。

ミチルより』

“お父さん”“お母さん”と呼ばれることは、素晴らしいことです。子供を授かって、あなたは初めて親になることができます。子供にとって、“お父さん”は一人、“お母さん”も一人です。代わりを立てることはできません。これほどまでに、命をかけて守らなければならない存在があるのでしょうか?必要とされる仕事があるのでしょうか?今、あなたが“お父さん”“お母さん”と呼ばれているのであれば、どうかその特権を放棄せず、全うしてください。もし、これから“お父さん”“お母さん”

になりたいとおもっているのであれば、自分を大切にし、
かみさま よろこ い かた じぶん たいせつ
神様に喜ばれる生き方をしましょう。次世代を担うのは、
あなたがそだ ことども
育てた子供たちです!!

詩篇 128 篇

【すべて主をおそれ、主の道に歩む者はさいわいである。
あなたは自分の手の勤労の実を食べ、幸福で、かつ
やすらかであろう。あなたの妻は家の奥にいて多くの実を
むす 結ぶぶどうの木のようにあり、あなたの子供たちは食卓
を囲んでオリーブの若木のようにである。
見よ、主をおそれる人は、このように祝福を得る。主は
シオンからあなたを祝福されるように。あなたは世に
あるかぎりエルサレムの繁栄を見、またあなたの子らの
子を見るであろう。どうぞ、イスラエルの上に平安が
あるように。】

さいご
最後に・・・

人間は一人では生きられません。家族による命のつながりがなければ、あなたはこの世に誕生することさえできませんでした。

私たちは、今、自分が存在していることの命の重みを忘れてはいけません。家族は切っても切れない糸でつながっているのです。

そして神様は、家庭における家族関係の中で『人としての在り方』を学ぶよう定められました。

う ひと あた ひと
受ける人から、与える人へ
ささ ひと ささ ひと
支えられる人から、支える人へ
なぐさめられる人から、励ます人へ
まわ む かんしん ひと ひと よ そ ひと
周りに無関心な人から、人に寄り添ってあげられる人へ
じぶん りえき もと ひと
自分の利益ばかりを求める人から、
ひと いた ひと
人の痛みがわかる人へ
すなお ひと
素直になれない人から、
じぶん おも すなお あいて つた ひと
自分の思いを素直に相手に伝えることのできる人へ
あい もと ひと ひと あい ひと
愛を求める人から、人を愛する人へ
かぞく もと ひと かに ひと
家族のぬくもりを求める人から、家庭をつくる人へ

かてい ひと ねんだい おう うつわ くんれん
家庭は、人が年代に応じた器になれるように訓練され、
せいちょう ばしょ
成長していく場所でなければなりません。
あなたを訓練してくれるのは、“家族”です。

あなたには、そんな“家族”がいますか？

そんな“家庭”がありますか？

ほん とお かぞく かてい いぎ せきん
この本を通して、家族とは、家庭とは、その意義と責任を、
あらた かんが さいわ
改めて考えていただければ幸いです。

かみさま けいかくどお ひとり ぼね
あなたが神様のご計画通り、「たった一人のあばら骨の
あいて で あ いのち そだ
相手」に出会えるように、そして、「命を育てる」という
かみさま さいこう しゆくふく まつと いの
神様の最高の祝福を全うできるよう祈っています。

ひと

1つになろうよ！

まずは、あなたの家族から…

しよ しょう せつ
ゼカリヤ書4章10節 a

ちい はじ かる
【この小さな始まりを軽んじるな。】

わたし きょうかいめい き せいしよ
※(私たちの教会名)「ぶどうの木」とは、聖書ヨハネに
ふくいんしよ しょう
よる福音書15章よりいただきました。

『わたし(イエス様)はまことのぶどうの木、わたしの
ちち かみ のう ふ
父(神)は農夫である。わたしにつながっている枝
(クリスチャン)で実を結ばないものは、父がすべて
これをとりのぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実ら
せるために、手入れしてこれをきれいにささるのである。
あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよく
されている。わたしにつながっていなさい。そうすれば、
わたしはあなたがたとつながってよう。枝がぶどうの木
につながっていなければ、自分だけでは実を結ぶことが
できないように、あなたがたもわたしにつながっていな
ければ実を結ぶことができない。』

……あなたがたがわたしにつながっており、わたしの
ことば せいしよ
言葉(聖書)があなたがたとどまっているならば、なん
でも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられる
であろう。

……あなたがたがわたしを選んだのではない。わたし
があなたがたを選んだのである。そして、あなたがた
を立たせた。それは、あなたがたが行って実をむすび、
その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたが

わたしの名^なによって父^{ちち}に求めるものはなんでも、父^{ちち}が
与^{あた}えて下^{くだ}さるためである。これらのことを命^{めい}じるのは、
あな^たがたが互^{たがい}に愛^{あい}し合^あうためである。』

イエス様^{さま}としっかりつな^{かな}がって^らい^なれば、必^{かな}ずこのみこ
とば^{じぶん}が自^{うえ}分^{じょうじゆ}の上^{じょう}に成^{じょう}就^{よげん}して^いき^ます。

私^{わたし}たちは、聖^{せい}書^{しょ}エゼキエル書^{しょ}第^{だい}3^{しやう}4^{よげん}章^{しやう}の預^{しやう}言^{よげん}により
集^{あつ}め^られ、聖^{せい}書^{しょ}のすべ^あて^いのみ^{しん}こ^{じっせん}とば^ばを愛^{あい}し、信^{しん}じ、実^{じつ}践^{せん}
して^いる、ク^リス^トヤ^ンです。

※ 聖^{せい}書^{しょ}の言^{こと}ば^ばは、「口^{こう}語^ご訳^{やく}聖^{せい}書^{しょ}」(日^に本^{ほん}聖^{せい}書^{しょ}協^{きやう}会^{かい})、「リ^リビ^ビン^ング^グバ^バイ^イブル^{ブル}」
「ア^あニ^ニメ^メバ^バイ^イブル^{ブル}」(い^いの^のち^ちの^のこ^こと^とば^ば社^{しゃ}) から引^{いん}用^{よう}しま^した。

「ぶ^ぶど^どう^うの^の木^き」発^{はつ}行^{こう}
2012.6.16